

リベラルアーツ学部

●リベラルアーツ学科

人材養成等教育研究に係る目的

リベラルアーツ学部における教育課程編成の基本方針は、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることにある。さらに、価値観の多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しつつ、調和の取れたコミュニケーション能力のある人材が求められており、その実現に向けて、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学習を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図り、社会的経験を積みながら「コミュニティの知的リーダー」となる人材の育成を目指している。具体的には、次のような学生像を掲げる。

- (1) 広い視野、判断力、考え抜く問題解決能力があり、積極的かつ協力して社会に関わっていただけるコミュニティのリーダーになれる人。
- (2) 基礎基本を土台に専門性を身につけ、様々なプロジェクトを実践・推進できる人。
- (3) 英語・日本語・デジタルコミュニケーション力があり、わが国の文化を様々なかたちで世界に発信できる人。
- (4) 生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたり学び続ける気持ちを持ち、社会にその知識を還元・推進できる人。

そこで4年間を3期、導入期・発展期・専攻期と位置づけ、それぞれの目標である構想力・実践力・推進力の育成をカリキュラムにおいて実現させる。導入期では日本語・英語のコミュニケーション力・情報処理スキル、プレゼンテーションスキルなどの育成に力点を置き、発展期では専門的研究の入門・演習科目を多様に開講し、実験・実習など様々な学びのスタイルを通して自らの課題に取り組んでいる。専攻期ではプロジェクトセミナーで研究方法を培い、問題の発見、課題の解決、思考力を専攻科目の履修を通して養い、その成果を地域に資するために発表、提供できる教育課程の編成としている。

ディプロマ・ポリシー

本学部においては、次のような能力が身につけていることをもって、卒業を認定する。

- (1) 常に社会の動きに関心を持ち、イデオロギーに流されることなく客観的に自らが判断し、かつ自分自身を相対化しえる視点を兼ね備えて、それにのっとって実践行動することができる。
- (2) プロジェクトにおいて各自のメジャー領域を究めると同時に、身につけた幅広い教養を基盤として、問題解決に取り組むことができる。
- (3) 語学力、ITなどのコミュニケーションツールを運用することができ、かつ、それらを駆使して自らの考えを効果的に伝達することができる。

- 日本語コミュニケーション** 高度な言語表現能力を身につけ、中学校・高等学校の国語教員、日本語教員、さらに様々なビジネスシーンにおいて中核を担う人材の育成を目指す。
- 英語コミュニケーション** 国際感覚を備えた英語技能を習得し、中学校・高等学校の英語教員、小学校英語指導者、また多様なビジネスシーンで中核をなす人材の育成を目指す。
- 日本学** 人間の生活や思想など多様な観点から広く日本の文化や歴史を分析・理解し、自身の得た知識を正しく情報発信できる国際感覚豊かな人材の育成を目指す。
- 芸術表現** 自らの心身を介した芸術活動を享受し、これを実践することでの確な理解力と表現力を身につけ、審美眼を備えた感性豊かな人材の育成を目指す。
- 社会学** 多様な分野を批判的に考察することで、社会の構成員としての意識と責任感を身につけ、社会に対して主体的にかかわることのできる人材の育成を目指す。
- 心理行動科学** 人間の成長や発達、行動や心理の分析をとおして社会的問題を解決し、自他の心身の健康促進と well-being を高める能力を持った人材の育成を目指す。
- 科学技術コミュニケーション** 自然を尊重しつつ現代科学に深い関心を抱き、未知の問題を検証しながら多様な分野を科学的・実証的に考察・判断することのできる人材の育成を目指す。